

BERNSTEIN 2 × MAHLER 9



サー・サイモン・ラトル
音楽監督就任・初ツアーハイ

レナード・バーンスタイン
生誕100周年

©Ronald Mackenzie 2015

©Johann Sebastian Hanel

| 第56回大阪国際フェスティバル2018 |

サー・サイモン・ラトル 指揮 ロンドン交響楽団

Sir Simon Rattle conducts London Symphony Orchestra

大阪限定・特別プログラム

バーンスタイン：交響曲第2番「不安の時代」 BERNSTEIN: Symphony No.2, "The Age of Anxiety"

クリスチャン・ツィメルマン(ピアノ) Krystian Zimerman, Piano



©Hiromichi Yamamoto and DGG

マーラー：交響曲第9番 二長調 MAHLER: Symphony No.9 in D Major

2018 9/23(日)14:00開演(13:00開場) フェスティバルホール 大阪市北区中之島2-3-18

チケット料金(全席指定・税込)

S席 29,000円 / A席 24,000円 / B席 19,000円 / C席 14,000円 / D席 9,000円 / BOX席 34,000円 / パルコニーBOX席(2席セット) 58,000円 / 学生 3,000円

※パルコニーBOX席はフェスティバルホールチケットセンター(電話予約、窓口)のみの販売

※学生席はフェスティバルホールチケットセンターのみの販売(限定20席) / 25歳以下 / 学生本人の名前でご予約ください / 当日指定席と引き換え / 学生証を提示してください

ご予約・お問い合わせ

フェスティバルホールチケットセンター 06-6231-2221 (10:00~18:00) ※窓口での取扱は4月30日(月・祝)より(ただし残席がある場合のみ)

フェスティバルホールオンラインチケット <http://www.festivalhall.jp> (要事前登録)

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 110-158] <http://t.pia.jp/> ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター予約 10:00~20:00) 0570-084-005 [Lコード: 52932] <http://l-tike.com/>

CNプレイガイド 0570-08-9990 <http://cncn.jp/> e+(イープラス) <http://eplus.jp/> セブンチケット <http://7ticket.jp/sc/21nh>

堺市文化振興財団チケットセンター 072-228-0055 (平日 9:00~17:30)

●フェスティバルホール・クラブ会員先行受付開始: 4/21(土)10:00 ●フェスティバルホール・オンライン会員先行受付開始: 4/28(土)10:00 ●一般発売日: 4/29(日)10:00

主催: 朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、フェスティバルホール 共催: 堺市、堺市文化振興財団

協賛: 朝日放送グループホールディングス、京都銀行、大和ハウス工業、凸版印刷

※やむを得ない事情により曲目、出演者等が一部変更になる場合がございます。公演中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはできません。予めご了承ください。※未就学児のご入場はご遠慮ください。



前代未聞の“伝説”を聴く

1985年の旧フェスティバルホールにおけるバーンスタイン指揮／イスラエル・フィルのマーラーの交響曲第九番の演奏は、今なお語り継がれる伝説の名演だった。ラトルがそのマーラー作品を、リニューアルされたとはいえ、同じフェスティバルホールで上演する——これはもう一つの事件である。マーラーの交響曲第九番は、カップリング曲なしの単独で演奏されることが多いが、よりによってバーンスタインの交響曲第二番との組み合わせとは！ おまけにバーンスタイン作品のソリストは、バーンスタインとたびたび共演したことのあるクリスチャン・ツィメルマンである。ただでも長いマーラーに加えて、このバーンスタインの交響曲。上演時間は相当長くなるだろう。演奏者の技術的な負担も相当なはずだ。精神的にもヘビーなことこのうえない。この組み合わせのコンサートを、しかもこのオールスターキャストで聴けることは、これからもまずないこと間違いない。まさに「前代未聞のコンサート」である。半端な覚悟では臨めない。だが一期一会こそ音楽の醍醐味。生涯にたった一度限りの伝説の体験となるに違いないこの機会に、心して臨もう。——岡田暁生(音楽学)



©Doug Peters



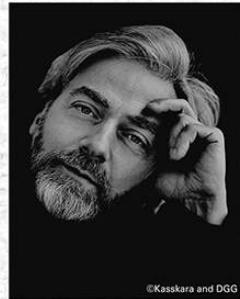
©Oliver Helbig

サー・サイモン・ラトル [音楽監督] Sir Simon Rattle, Music Director

リヴァプール生まれ。英国王立音楽院で学ぶ。1980～98年にバーミンガム市響を率いた後(1990年からは音楽監督)、2002～18年にはベルリン・フィルの芸術監督兼首席指揮者として活躍、昨年9月よりロンドン響音楽監督を務める。現在に至るまで一貫してクリエイティブな活動を続け、ベルリン・フィルとは世界中でツアーを行ったほか、教育プログラムを創設するなど新しい分野も開拓し、多くの名誉ある賞を受賞。2013年にはベルリン・フィルとともに、イースター音楽祭の拠点をバーデン＝バーデンに移し、様々なオペラを上演。オペラの分野では、ロイヤル・オペラハウスやウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場でも指揮をしている。レコーディングも多く、バーミンガム市響やベルリン・フィルとは70を超える録音をEMI(現ワーナー)に残しており、ロンドン響とはLSOライブから昨年ドビュッシーのオペラ「ペレアスとメリザンド」と、「ラヴェル、デュティユー、ドランジュ」のブルーレイ&DVDが発売された。ウィーン・フィル、ボストン響、フィラデルフィア管をはじめ、世界各地の主要楽団にも客演。1994年にナイト爵に叙せられ、2014年には英国女王よりメリット勲章が与えられている。

ロンドン交響楽団 London Symphony Orchestra

1904年にロンドンの一流音楽家たちによって創設。「多くの人々に素晴らしい音楽を届けたい」という起業家精神のもと、楽団員による芸術的主導権とパートナーシップで自主運営される、英国最高にして世界屈指のオーケストラ。伝統のサウンドをもち、当代一級の演奏家たちと名演を繰り広げている。1982年にバービカン・センターが開館して以来、レジデント・オーケストラとして年間約70回の公演を行い、海外ツアーやLSOセントルースや地域教育プログラムであるLSOディスカバリーなどでも毎年多くのコンサートを開いている。新しい音楽への取り組みにも積極的で、第一線で活躍する英国の作曲家に定期的に新作委嘱をし、初演している。2017年からラトルが音楽監督を務め、彼はLSOを指揮することを「ピンを少し触るだけで作動する高性能のスポーツカーを運転しているよう」と語る。首席客演指揮者にはノセダとロト、名誉指揮者のプレヴィンを擁し、親しいファミリーのような関係で活動を展開する。教育に深く関わり、メディアでも最先端をいき、自主レベルの「LSOライヴ」は大成功。「スター・ウォーズ」などの映画音楽でも有名である。



クリスチャン・ツィメルマン [ピアノ] Krystian Zimerman, Piano

ポーランド生まれ。1975年にショパン国際コンクールに史上年少で優勝し、一躍世界の音楽界へ。バーンスタイン、カラヤン、ブーレーズ、ジュリーニ、小澤征爾、ムーティら多くの大指揮者と共に。ドイツ・グラモフォンと専属契約し、CDは受賞多数。近年の来日公演はリサイタル・ツアーのほか、クライメルとのデュオ、チョン・ミョンファン指揮／東京フィルとツィメルマンに捧げられたルトスワフスキのピアノ協奏曲、P.ヤルヴィ指揮シンシナティ響とガーシュイン「ラブソディ・イン・ブルー」、ヤンソンス指揮バイエルン放送響(ブームス：ピアノ協奏曲第1番)などがハイライトとして挙げられる。今年はバーンスタイン生誕100周年を記念し、彼の交響曲第2番「不安の時代」をラトル指揮ロンドン響やベルリン・フィルなど、ヨーロッパ各地およびアジアで演奏を続けている。

sacayメイト
募集中!!
(登録無料)

QRコード

(公財)堺市文化振興財団
<https://www.sakai-bunshin.com/>

南海高野線 なんば駅～堺東駅 約10分

誕生 堀市民芸術文化ホール

2019年秋 フェニーチェ堺
グランドオープン

堺の街に
あたらしい
文化が
生まれます。

大阪

FENICE SACAY